


ホソバムカシヨモギ	<i>Erigeron acer</i> L. var. <i>linearifolius</i> (Koidz.) Kitam.	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 II 類)		キク科
選定理由	生育地が極めて限定され、個体数も少ない。	写真(大塚英樹)
形態の特徴	茎は高さ30-60cm。葉は線状披針形から線形、長さ5-7cm、幅5-6mm。茎のさきに頭花が円錐状につく。頭花は直径約1.5cm、舌状花と筒状花からなる。舌状花は線形で小さく、白色、筒状花は白黄色。	
生態的特徴	冷温帯の日当たりのよい砂礫地に生育する。花期は8月。	 
分布状況	日本固有で、本州と四国に分布する。岐阜県では県北の北西部に見られる。	
減少要因	開発による生育地の破壊。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項	高山帯にあるエゾムカシヨモギの変種。	
参考文献		

文責:高橋弘